

(臨床研究に関する公開情報)

岡山医療センターでは、下記の臨床研究を実施しております。この研究の計画、研究の方法についてお知りになりたい場合、この研究にカルテ情報を利用することをご了解できない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、研究の知的財産等は、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

[研究課題名]

当院の大腿骨近位部骨折患者における骨粗鬆症の現状及び与える影響についての検討

[研究責任者]

リハビリテーション科 理学療法士 安藤 可織

[研究の背景]

骨粗鬆症とは、骨強度の低下を特徴とし、骨折のリスクが増大しやすくなる骨格疾患であります。わが国の骨粗鬆症患者は約1280万人(2015年骨粗鬆症ガイドライン)、年間発生率は約100万人とされています。要介護や寝たきりの原因となっており、骨折を減少させる意味でも骨粗鬆症への予防介入は重要であります。一方で骨粗鬆症の治療率は20%と非常に少ないのが現状です。

近年、骨粗鬆症に対して多職種の専門的なチーム(骨粗鬆症リエゾンサービス)による介入が重要視されています。その中でも理学療法士の役割は転倒リスクを評価し、運動療法を計画・実行することです。

[研究の目的]

大腿骨近位部骨折患者さんの骨粗鬆症の有無が機能的回復にどのように影響を及ぼすかわかりにすることがあります。このことが明らかとなれば、骨粗鬆症に対する治療率の向上に期待できます。この臨床研究は、リハビリテーションを施行された大腿骨近位部骨折患者さんに対して観察研究を行い、骨粗鬆症の有無が機能的回復に及ぼす影響を明らかにすることを目的としています。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

大腿骨近位部骨折の患者さんで、西暦2016年1月から2018年3月31日の間にリハビリテーションを受けた方

●研究期間

当院の臨床研究審査委員会承認後、研究実施許可日から西暦2021年4月30日

●利用するカルテ情報

カルテ情報：

・患者さんの基本的な情報

(性別、身長、体重、既往歴、受傷前及び退院時の生活場所、歩行能力など)

- 臨床情報
(診断確定日、診断名、治療方法、治療薬など)
- レントゲン検査結果
(骨強度など)
- 血液検査結果
(1型プロコラーゲン-N-プロペプチド値、酒石酸抵抗酸性フォスファターゼ値など)
- 理学療法評価
(動作能力、アンケートによる生活動作能力評価、認知症評価の結果など)
- 情報の管理
情報は、当院のみで利用します。

[研究組織]

この研究は、当院のみで実施されます。

[個人情報の取扱い]

検体や情報には個人情報が含まれますが、利用する場合には、お名前、住所など、個人を直ちに判別できるような情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。検体や情報は、当院の研究責任者リハビリテーション科 理学療法士 安藤 可織が責任をもって適切に管理いたします。この調査へのご自分の診療記録の使用をお断りになっても、不利益を受けることはありません。その場合は担当者にお申し出ください。

[問い合わせ先]

【研究責任者】

リハビリテーション科 理学療法士 安藤 可織

【研究分担者】

リハビリテーション科 理学療法士 中路 哲司

リハビリテーション科 理学療法士 竹原 典子

リハビリテーション科 理学療法士 安藤 可織

リハビリテーション科 理学療法士 安川 達哉

リハビリテーション科 作業療法士 二宮 加奈子

リハビリテーション科 理学療法士 廣川 晴美

リハビリテーション科 医長 西崎 真里

国立病院機構岡山医療センター

〒701-1192 岡山市北区田益 1711-1

電話：086-294-9911 FAX：086-294-9255